

1. 公共空間活用を促進するDXツールが求められる背景

ウォークラブルな環境を志向する社会的潮流に伴い、道路空間や沿道の民地といった、地区内に分散する小区画を賑わいの場として活用する事例が全国で生まれています。

地区内に分散する区画を戦略的・効率的に活用するには、デジタル技術を用い、マネジメント主体(地方公共団体、都市再生推進法人等)や、キッチンカー等のサービス提供者の円滑な連携を促進することが重要ですが、ニーズを満たす仕組みやノウハウは確立されていないのが現状です。

このような課題認識に基づき、NSRIではマネジメント主体とサービス提供者が円滑に連携するためシステム(STAASシステム 図1)の開発を2019年から行っており、福岡市、町田市内における実証実験等にご提供しています。



図1 STAASシステムのイメージ

2. STAASシステムで提供する価値

<マネジメント主体・サービス提供者の連携DX機能>

従来、マネジメント主体とサービス提供者の連携は、電話、メール、申請書類、個別のデスクトップアプリケーション等で個別に行われており、大量かつ継続的・反復的・散発的な調整業務の発生が課題となっていました。

上記の活用プロセスをDXにより円滑化するため、マネジメント主体用のシステムと、サービス提供者用システムを開発しました(図2)。

両システムをクラウド上で連携させることにより、公共空間活用に伴う募集、応募、選定、報告、効果検証を一元化し、限られた人的資源で対応できるPDCAサイクルの実現を企図しています。

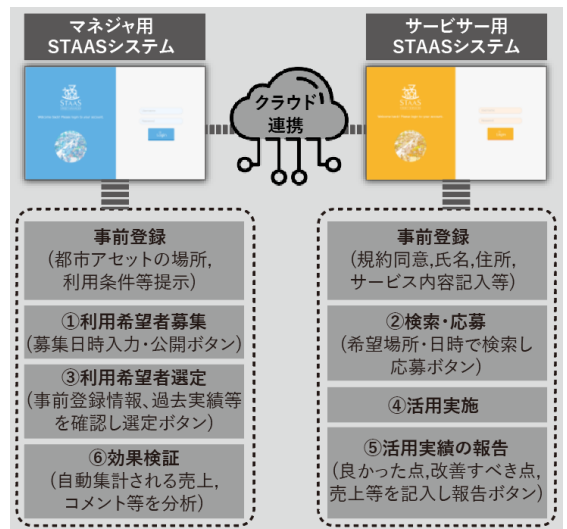


図2 連携プロセスDX化のイメージ

<人流データと連携した効果検証機能>

公共空間活用を事業として継続するためには、取組み期間のデータを蓄積し、定量的な効果検証を行うことも重要です。STAASシステムの開発に当たっては、簡易に設置可能な人流センサー等と連携した、歩行者交通量のダッシュボード、分析機能等を開発しています。

3. STAASシステムの今後の展開

複数年のアジャイル開発と実証実験からのフィードバックを踏まえ、今後は同種の課題を有する全国地域への展開を行うべく、各地域での意見交換を進めています。ご関心をお持ちの方は、お気軽にお問合せくださいませ。



図3 人流データと連携した効果検証のイメージ

本件に対する問合せ：日建設計総合研究所 STAAS担当宛

e-mail : webmaster_ri@nikken.jp